



新庁舎の建設に向けて

2013年度は、平城宮跡発掘調査部設立50年、飛鳥藤原宮跡発掘調査部設立40年の節目の年でしたが、奈良文化財研究所の本庁舎(旧庁舎)にとっても忘れることのできない年になりました。

旧庁舎は、奈良県立医科大学附属奈良病院として昭和39年に建てられた建物です。その後、奈良県立奈良病院に移管されましたが、昭和52年の平松町への病院移転を受けて、国が敷地と建物を買い上げ、2カ年にわたる建物の改装工事を経て、昭和55年から奈文研本庁舎としての使用が始まりました。

以来、奈文研の調査研究拠点として33年間慣れ親しんできましたが、さすがに築50年近くになると、床や壁面に老朽化によるクラックが多数入り、雨漏り等も顕著になってきました。また、研究資料や図書資料の増加にともなう狭隘化も深刻な状況となり、耐震診断の結果でも建物の安全性が危惧されるようになりました。

このため、本庁舎建替の予算要求を長くおこなっていましたが、ようやく2012年度から建替の予算が認められ、新庁舎の建設が実現する運びとなりました。今年度には新庁舎建設に向けた動きが本格化し、宮跡内にプレハブの仮設庁舎を設置し、年末に大規模な引越し作業を無事に終えました。また、本年度に実施した試掘調査の結果をもとに、新庁舎の建物位置が旧庁舎の基礎と極力重なるように実施設計を進めているところです。

現在、旧庁舎の取り壊し作業が進行していますが、取り壊し工事後に建設予定地の発掘調査をおこない、2014年10月から新庁舎の建設工事に入る予定です。新庁舎は2016年3月末に竣工予定で、それまでの約2年間は仮設庁舎での業務となります。関係者や平城宮跡の利用者、周辺住民の皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、どうぞよろしくご理解

とご協力を願い申し上げる次第です。

新庁舎は、現時点の構想では地上4階、地下1階建てで、旧庁舎の約1.5倍の延べ床面積を予定しています。建物の間取りや設計にあたっては、各部署選出の本庁舎地区再開発計画検討WGのメンバーが基本計画を策定し、部課長会議による調整と検討を経て、所員の意見をより多く設計に反映できるよう作業を進めているところです。

2月から解体作業がおこなわれている旧庁舎は、奈文研の調査研究活動の拠点として、これまで多くの人々に親しまれ、数々の業績を支えてきた陰の功労者です。2014年1月31日には、旧庁舎の解体前に関西在住の奈文研OBに声をかけて「奈文研本庁舎とのお別れ会」を開催しました。旧庁舎の研究室を根柢に調査研究に励まれたOB達の旧庁舎に対する愛着はひとしおで、なごりを惜しむ声とともに、若かりし頃の思い出話に花が咲きました。

生まれ変わる奈文研本庁舎は、より快適で高度な調査研究環境の整備を目指すとともに、耐震対策を施して建物の安全性の強化を図る等、新たな時代の文化財研究を牽引するナショナルセンターに相応しい機能を充足させた施設にしたいと考えています。

(所長 松村 恵司)



「奈文研本庁舎とのお別れ会」から